



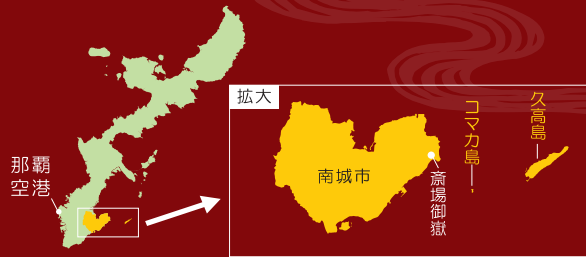
緑の館・セーファ 入館のお知らせ

TEL/FAX : 098-949-1899

開館時間
11月～2月 9:00～17:30
(最終チケット販売16:45/最終入館17:00)
3月～10月 9:00～18:00
(最終チケット販売17:15/最終入館17:30)

休日
2023年 6月18日(日)～6月20日(火)
旧暦5月1日～5月3日
11月13日(月)～11月15日(水)
旧暦10月1日～10月3日
2024年 6月6日(木)～6月8日(土)
旧暦5月1日～5月3日
11月1日(金)～11月3日(日)
旧暦10月1日～10月3日
2025年 5月27日(火)～5月29日(木)
旧暦5月1日～5月3日

記念スタンプ



駐車場は南城市地域物産館(観光協会)前及び岬公園をご利用下さい。
●住所/南城市 知念 字久手堅539
※チケットのお求めは物産館のみとなっております。



一般社団法人 南城市観光協会
TEL:098-948-4660



斎場御嶽

せー

ふあ

う

たき

世界文化遺産

琉球開びやく伝説にもあらわれる
琉球王国最高の聖地

沖縄県
南城市

聖地を訪れる方へのお願い

敬う心構えで

聖地は祈りの場所だということを忘れないでください。

ガイドとともに回ることをお勧めします

沖縄独特の祈りの文化を知るために、ガイドをご利用ください。(有料)

祈りをさえぎらないでください

拝みをしている人たちにみだりに声をかけたり、写真を撮ったりしないでください。

聖地内にあるものを持ち出さない

石や動植物を記念に持ち帰らないでください。

香炉は神聖な物です

拝所に据えられた四角い石を香炉といい、この上にお線香を置いて神に祈ります。座ったり物を置いたりしないでください。



斎場御嶽とは

御嶽とは、南西諸島に広く分布している「聖地」の総称で、斎場御嶽は琉球開びやく伝説にもあらわれる、琉球王国最高の聖地です。また、琉球国王や^{きこえおきみ}間得大君の聖地巡拝の行事を今に伝える^{あがりうまい}「東御廻り」の参拝地として、現在も多くの人々から崇拝されています。

御嶽の中には六つのイビ(神域)があります。琉球国王はこの六ヶ所を参拝しながら、国家繁栄・安寧、五穀豊穰、航海安全などを神に祈願しました。

はるかなる琉球王国時代、国家的な祭事には聖なる白砂を「神の島」といわれる久高島から特別に運び入れ、それを御嶽に敷きつめました。その中でも、最も大きな行事が、間得大君の就任式である^{おあらうり}「御新下り」でした。

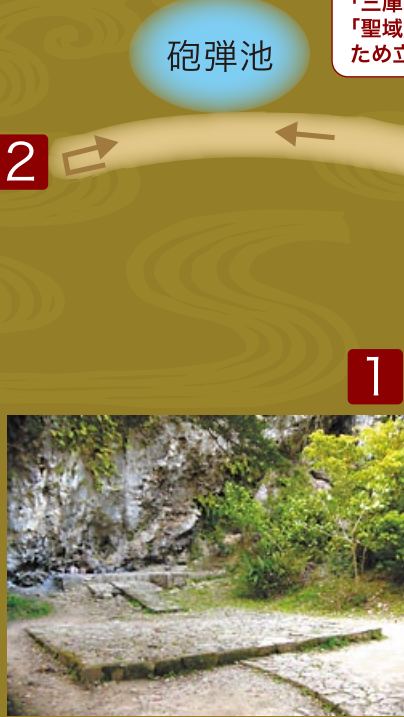
斎場御嶽 六つの拝所

「三庫理」の祭壇も「大庫理」や「寄満」の祭壇と同様「聖域」でございます。聖域保全、適切な維持管理のため立入禁止区域とさせていただきます。



2 寄満(ユインチ)

寄満とは、王府用語で「台所」を意味します。ここで調理をしたわけではなく、貿易の盛んであった当時の琉球では、世界中から交易品の集まる「豊穡の満ち満ちた所」と解釈されています。



1 大庫理(ウフグーイ)

御門口から登っていくと左手に見える最初の拝所です。大広間や一番座という意味を持っており、前面には、石畳の敷かれた祈りの場(ウナー)があります。



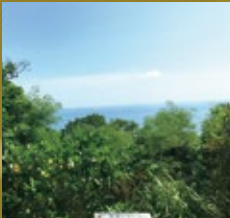
3 アマダグールアシカヌビーの壺

二本の鍾乳石から滴り落ちる「聖なる水」を受けるため、二つの壺が据え置かれています。

4 シキヨダグールアマガヌビー

- 御門口(ウジョウグチ)
- 久高島遥拝所

久高島遥拝所

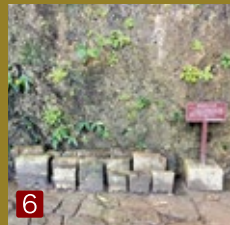


御嶽内へ入る参道の入口です。右側には、六つの香炉が据え置かれています。これは御嶽内にある拝所の分身とされています。



5 三庫理(サングーイ) 6 チョウノハナ

三角形の空間の突き当たり部分は三庫理。右側の岩の上がチョウノハナで、それぞれが拝所となっています。



砲弾池

公園池



緑の館・セーフア

入口



公園

出口

ウローカー

琉球王朝時代、斎場御嶽に入る際に、ここでみそぎをしました。
※足元にご注意下さい。

与那原町

国道331号

安座真港へ
(→久高島へ)

あざま
サンサンビーチへ

八重瀬町

知念岬公園

斎場御嶽前バス停



P 物産館(チケット販売所・無料駐車場)

【展示・上映室のご案内】(入館料無料)
斎場御嶽内部を忠実に再現した映像や、写真・解説等を交えた展示パネルによる紹介をはじめ、三庫理(サングーイ)から出土した金製勾玉(複製品)の展示を行っております。

発掘調査で確認された三庫理前の排水溝



発掘調査の結果、様々な遺構が確認できました。石畳の参道の下をくぐりぬける排水溝や、祀りの場を清めた白砂の堆積などです。
さらに、重層的な遺構から重要な儀式のたびにこの場所を整備してきた様子などがわかってきました。

斎場御嶽出土品(国指定重要文化財)



斎場御嶽からは、中世から近世までの様々な資料が出土しました。特に注目されたのが金製を含む勾玉や、中国の青磁器・銭貨などが一括して見つかったことです。御嶽という聖地の、最も気高い三庫理からの出土は、当時の琉球信仰を考える極めて貴重な資料です。

用語解説

あがりうまーい

東御廻り

琉球の創世神アマミキヨが渡来し、住みついたと伝えられる知念・玉城の聖地を巡拝する行事。
首里城から見て、大里・佐敷・知念・玉城を東四間切(あがりゆまざり)または東方(あがりかた)といったことから、知念・玉城の拝所巡礼を(東御廻り)と称した。

おあらうり

御新下り

聞得大君が最高神職に就任する儀式。首里における儀礼を終え、いくつかの要所を経て、知念間切(ちねんまざり)にある斎場御嶽に入り、数々の儀式を執り行った。聞得大君は、聖水を額に付ける「御水撫で(うびいなでい)」の儀式で神霊を授かり、神と同格になったといわれる。

きこえおおきみ

聞得大君

聞得大君とは「最も名高い神女」という意味で、琉球の信仰における神女の最高位の呼称。琉球王国最高位の権力者である国王と王国全土を霊的に守護する存在とされた。そのため、国王の姉妹など王族の女性が任命された。
初代(1470年)から15代(1875年)までの400年余りにわたって、琉球王府の神事を担った。

くだかじま

久高島

琉球王朝時代から数々の神事が行われており、「神の島」と呼ばれる。琉球開びやくの祖アマミキヨが天から降りて最初につくったとされており、五穀発祥の地ともされた。歴代の琉球国王は17世紀まで2年に1回、久高島参詣を欠かさなかった。
12年に1度、午年(うまどし)に行われる神事・イザイホーに代表される神秘的な神事が行われていたため、民俗学的に貴重な島として注目されている。